

平成24年度 児童の学力向上を図るための調査について

6月6日には6年生を対象として、7月5日には5年生を対象として、学力調査を実施しました。この調査は、児童一人一人の学力の状況を把握し、指導の改善を進め、児童の学力向上を図るためのものです。結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

① 24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査(5年生)」の結果〈数値の単位：％〉

A 教科の内容												
教科	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む			
	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都
国語	86.4	84.8	72.2	68.1	84.8	75.9	80.7	76.1	52.5	44.8	76.2	71.3
社会	96.0	92.2	62.1	54.3	74.6	70.3	51.0	40.8			70.6	64.1
算数	85.6	81.7	65.7	57.0	70.3	65.8	66.3	62.8			68.9	64.0
理科	95.5	95.0	65.5	61.0	49.2	48.8	76.5	61.0			68.1	62.3

B 読み解く力に関する内容								
教科	取り出す力		読み取る力		解決する力			
	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都
国語	84.8	73.7	63.6	61.5	21.2	17.8	56.6	51.0
社会	63.6	58.6	47.0	40.1	48.5	39.3	52.2	45.2
算数	65.2	59.4	18.9	9.2	37.1	24.8	40.4	31.1
理科	88.6	84.2	75.3	68.7	25.8	19.7	64.9	59.1
	74.2	68.3	52.0	45.1	34.8	26.5		

教科等の 合計正答率 (A、B)		
	立野小	東京都
国語	73.6	68.5
社会	64.4	57.8
算数	64.0	58.3
理科	67.1	61.3

- どの教科の内容においても、東京都の平均を上回っている。また、各教科において関心・意欲・態度も高い。
- 読み解く力に関する内容に関しては、全教科とも「読み取る力」「解決する力」に課題がある。
- 算数では問題から必要なことを読み取って解決する力が十分ではない。単に公式を教えるだけであったり、計算練習を多く積むような学習だけであったりすることなく、問われている意味をじっくり読み取り解決し、それを説明することができるような指導を繰り返すことが必要である。
- 国語では、「話す・聞く能力」における「話し手の意図を捉えながら聞くことができるか」をみる問題に課題がある。話し手が、伝えたい大事なことを聞き分けられる能力を育てていきたい。

② 24年度「練馬区立小学校 学力調査(6年生)」の結果 〈数値の単位：％〉

	関心・意欲・態度			話す・聞く 数学的な考え方			書く 技能		
	立野小	練馬区	全国	立野小	練馬区	全国	立野小	練馬区	全国
国語	76.5	74.9	71.8	69.3	71.7	76.1	81.8	76.9	71.5
算数	55.9	48.0	46.8	61.2	52.8	50.4	78.0	71.8	68.0

	読む			言語 知識・理解			全体		
	立野小	練馬区	全国	立野小	練馬区	全国	立野小	練馬区	全国
国語	72.3	68.3	61.2	78.3	74.2	67.6	76.7	73.2	67.6
算数				79.5	72.2	69.5	74.7	68.0	64.4

- 国語も算数も、全体をみると練馬区の平均を上回っている。
- 国語は「話す・聞く」の領域が平均を下回っている。聞き手は、話し手のスピーチに対して、話の内容を理解することはできるが、「その話をすることで、みんなにどうしてほしいのか。」「なぜ、その話をみんなにしているのか。」など、話し手の目的や意図をつかむことが苦手なようである。学校生活全体を通して、意識的に指導していく必要がある。
- 算数は、高い学力の子供の割合が多い。全体の底上げを図ることができるよう、いっそう基礎基本の指導を大切にしていきたい。